

先端 IT 活用推進コンソーシアム
(AITC)

第 六 回 総 会

議 案 書

2015 年 10 月 23 日(金)

於 (株)日立製作所

目 次

第1号議案 第5期(2014年度)活動報告の件	
・ 活動実績	1-1
第2号議案 第5期(2014年度)収支報告の件	
・ 収支計算書.....	2-1
・ 貸借対照表・財産目録.....	2-2
・ 監査報告書.....	2-3
第3号議案 会員規約改定の件	
・ 会員規約改定.....	3-1
第4号議案 第6期(2015年度)活動計画承認の件	
・ 本会の活動・運営方針.....	4-1
・ 第6期(2015年度)の活動計画.....	4-1
第5号議案 第6期(2015年度)予算計画承認の件	
・ 予算計画.....	5-1
第6号議案 第6期(2015年度)理事/監事選任の件	
・ 役員構成.....	6-1
付属資料	
・ 第6期(2015年度)活動のご紹介	i-1
～部会および協働プロジェクトの活動計画～	

注:AITCにおける年度は下記の通りです。

第1期(2010年度):2010年9月8日～2011年8月31日

第2期(2011年度):2011年9月1日～2012年8月31日

第3期(2012年度):2012年9月1日～2013年8月31日

第4期(2013年度):2013年9月1日～2014年8月31日

第5期(2014年度):2014年9月1日～2015年8月31日

今期⇒第6期(2015年度):2015年9月1日～2016年8月31日

第 1 号議案

第 5 期（2014 年度）活動報告の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第5期の活動総括

設立当初に設定した3年の会期を3年延長し、活動の一層の充実を目指す2年目として、下記の活動構想の下、第5期重点施策の実現に向けて各種の新しい企画を立案、実行した。結果、AITCとその活動は広く知られるところとなり、会員も増加傾向にある。今後の活動に期待できる画期的な一年であったと総括する。

活動構想:・先端ITの研究から、活用推進へと発展
 ・AITCで培った知見やノウハウを社会に還元
 ・社会に認められる先端ITのプロフェッショナル集団へ

第5期の重点施策:

- 1) 部会活動の連携を更に強化
- 2) 情報公開、活動のオープン化の更なる強化
- 3) 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの強化

第5期のトピックス

- ・Project LAに続く新しい協働プロジェクト「空気を読む家」の活動開始
 ー全部会が連携して構想からアーキテクチャーの研究、合同部会で実現方法を討議
- ・2014年11月よりAITCオープンラボで「IoT勉強会シリーズ」を開始
 ー旬の技術領域へのチャレンジ、活動のオープン化&スピーディな情報公開で非会員の参加が急増
- ・2015年3月に「シニア技術者プログラム」、5月に「IT女子プログラム」を開始
 ー主対象に合わせた活動と運営で幅広い層の参加と交流を実現

■会員数

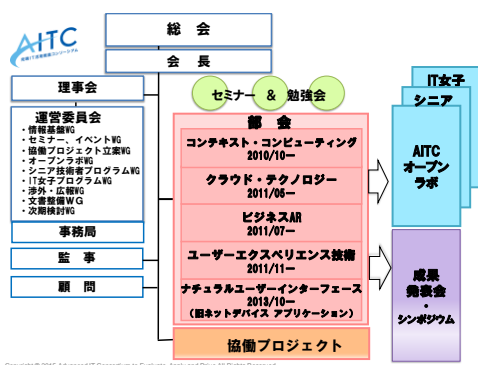
2015年8月31日現在: 総会員 58会員 (法人&個人事業主会員:35、個人会員:17、学会会員:2、特別会員:4)

■第5期の実績・成果

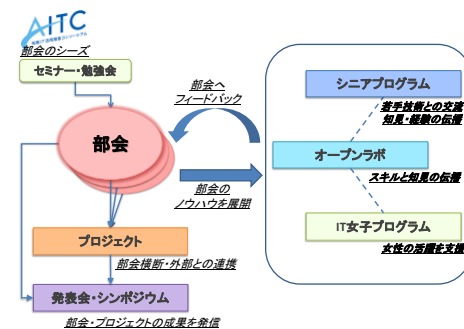
- ・研究成果を文書にまとめ公開
 ー協働プロジェクト「Project LA(Leads to Action)」の最終報告書を公開
 ーコンテキスト・コンピューティング研究部会 学会投稿・発表の三論文を公開
 ー外部での講演: 3件
- ・「AITCオープンラボ」でIoT関連の旬の情報を発信
 ー月次開催: 11回 (演習付き勉強会)
 ー非会員、特に新規、若手の参加者激増
- ・各種情報の発信、イベントの告知・広告にオープンな外部サービスを活用
 ー認知度の向上
 ー新規参加者の激増
 ーAITCニュースレターの定期発行
 ー各種イベントでのAITCパンフレットの配布

■部会、AITCオープンラボ等の活動実績

(参考図1: 第5期 体制図)



(参考図2: 活動の種類と関係)



1. 部会

1) クラウド・テクノロジー活用部会

- ・気象庁XML用APIの維持・管理
- ・クラウド関連の情報交換、イベント参加報告: 随時
- ・クラウド関連の最新技術を使っている企業を訪問: 2回
- ・部会内勉強会の開催: 5回 (内1回は外部講師)
- ・部会内ハンズオンの開催: 3回
- ・AITCオープンラボとの連動: 2回

2) コンテキスト・コンピューティング研究部会

- 理論:・書籍「情報推薦システム入門」の輪読→ Wikiにまとめを掲載
 ・書籍「集合知とは何か」の輪読→ Wikiにまとめを作成中

- ・関連研究の紹介（もくもくリアクター、など）
- 実践：・Web関連技術の最新動向→ <http://www.slideshare.net/dsuket/web-42026827>
- ・リアルタイムWebとリアクティブプログラミング/FRPの組み合わせ
- ・Web of Things
- ・Deep Learning
- 応用：・2020年の東京オリンピックに向け、外国人観光客が増えたら
- ・協働プロジェクト「空気を読む家」でのコンテキストコンピューティングの活用

3) ビジネスAR研究部会

- ・空間OSの開発
- ・情報収集 「2013-2014这一年のAR関連アップデート」
- ・外部講演 1回(神奈川情報サービス産業協会向け)
- ・記事掲載:朝日新聞(週末版(be) & デジタル)にインタビュー記事(BizAR部会が定義しているARの解説)

4) ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

- ・マンガ駆動開発 プロセスの設計、実践
- ・券売機のUXデザイン
- ・券売機プロトタイプの開発
- ・協働プロジェクト テーマ検討、UXデザイン
- ・イベントの準備、参加
 - ー情報処理学会 ソフトウエアジャパン2015 ITフォーラムセッション: 日本発! マンガ駆動開発のすゝめ
 - ーDevelopers Summit 2015: マンガ駆動開発
 - ー21cafe AITCオープンラボ: マンガ駆動開発のすゝめ ~キャラづくり・シナリオづくり・モノづくり~
 - ーデジタルガジェット祭り
 - ーdots. AITCオープンラボ 第6回 IoT勉強会
 - ーAITC 協働プロジェクト「空気を読む家」

2. 協働プロジェクト

- 1) Project LA: 九州IT&ITS利活用推進協議会(QPITS)との実証実験
「防災サバイバルIT. hack ~最先端ITを活用した集中豪雨対策シミュレーション&アイデアソン」
- 2) 新しい協働プロジェクト「空気を読む家」:
合同部会 2回: ・協働プロジェクトのテーマ検討
「空気を読む家」の構想、アーキテクチャー、実現のための先端ITを検討
・各部会での詳細検討を持ち寄り、月次の部会リーダー会で意見交換を実施

3. 発表会・シンポジウム

- ・第4期活動成果発表会: 2014年9月25日(木)、27日(土)、29日(月)、10月3日(金)

4. AITCオープンラボ

- ・月次開催 : 11回 「IoT勉強会シリーズ」

5. シニア技術者プログラム

- ・月次開催 : 6回 (2015年3月より活動開始) 「IoT勉強会シリーズ」&「若手との交流会」

6. IT女子プログラム

- ・月次開催 : 4回 (2015年5月より活動開始) 「最新技術を学ぶシリーズ」&「交流会」

■運営関連の活動実績

1. 年次総会: 1回
2. 理事会: 開催2回、ML審議4回
3. 運営委員会: 開催14回、SNS審議23回
 - 1) 情報基盤
 - ・ドメイン&サーバー管理
 - ・Facebookでのイベント広告管理(効果測定)
 - 2) セミナー・イベント
 - ・「第4期活動成果発表会」企画、運営
 - ・「Developer Summit 2015」参加企画
 - ・「第5期活動成果発表会」企画
 - 3) オープンラボ、シニア勉強会、AITC女子会の企画、運営
 - ・開催回数: 21回
 - ・IoT、AI、Deep Learningへの取り組み

- 著名人、先達の講演と交流
- 外部組織・団体とのコラボレーション

4) 渉外・広報

- ・ニュースリリース: 1件
- ・九州IT&ITS利活用推進協議会(QPITS)との実証実験の実施
- ・AITCパンフレット更新
- ・AITCニュースレター発行: 4回

5) 文書整備

- ・会員規約の改訂検討・提案
- ・実施細則の更新検討

6) 次期検討委員会

- ・会期終了(2016年8月31日)後のあり方検討
 - 更なる会期延長の是非
 - 会期延長と会員規約の改訂に関する議案作成
- ・第6期活動計画の立案、議案作成

【参考資料: 詳細データ (2014年9月1日～2015年8月31日)】

1. 会員数の推移

2010年09月08日(設立総会時)	総会員: 21会員(法人&個人事業主会員: 20、1特別会員: 1)
2011年08月31日	総会員: 48会員(法人&個人事業主会員: 38、個人会員: 5、学会会員: 2、特別会員: 3)
2011年10月21日(第二回総会時)	総会員: 48会員(法人&個人事業主会員: 37、個人会員: 6、学会会員: 2、特別会員: 3)
2012年08月31日	総会員: 53会員(法人&個人事業主会員: 40、個人会員: 7、学会会員: 3、特別会員: 3)
2012年10月12日(第三回総会時)	総会員: 50会員(法人&個人事業主会員: 39、個人会員: 6、学会会員: 2、特別会員: 3)
2013年08月31日	総会員: 54会員(法人&個人事業主会員: 41、個人会員: 7、学会会員: 2、特別会員: 4)
2013年10月04日(第四回総会時)	総会員: 50会員(法人&個人事業主会員: 36、個人会員: 8、学会会員: 2、特別会員: 4)
2014年08月31日	総会員: 52会員(法人&個人事業主会員: 34、個人会員: 12、学会会員: 2、特別会員: 4)
2014年10月17日(第五回総会時)	総会員: 51会員(法人&個人事業主会員: 34、個人会員: 12、学会会員: 1、特別会員: 4)
2015年08月31日	総会員: 58会員(法人&個人事業主会員: 35、個人会員: 17、学会会員: 2、特別会員: 4)
2015年10月23日(第六回総会時)	総会員: 61会員(法人&個人事業主会員: 35、個人会員: 21、学会会員: 1、特別会員: 4)

2. 活動の実績

1) 総会

第五回総会開催

開催日 2014年10月17日
 開催会場 (株)日立ソリューションズ 本社別館(品川) ホールC&D
 参加者数 58名(懇親会 44名)

2) 理事会: 開催2回、ML審議4回

- ・開催日: 2014年09月21日、2014年10月17日
- ・ML審議: 2014年09月17日～2014年09月24日 成果物認定 & 一般公開の是非について
(CC研究部会作成の2論文)
- 2015年05月08日～2015年05月25日 成果物認定 & 一般公開の是非について
(協働プロジェクト Project LA最終報告書)
- 2015年05月13日～2015年05月20日 理事会社ならびに運営委員継承の是非について
(PFUソフトウェア(株)→PFUテクノコンサル(株))
- 2015年07月30日～2015年08月05日 第5期会員アンケートの実施について

3) 運営委員会: 開催14回、ML審議23回

- ・開催日: 2014年09月26日、2014年10月02日、2014年10月17日、2014年10月24日、2014年11月28日、2014年12月19日、2015年01月23日、2015年02月27日、2015年03月27日、2015年04月24日、2015年05月29日、2015年06月26日、2015年07月24日、2015年08月21日
- ・審議(ML、SNS):
 - 2014年09月09日～2014年09月15日 成果物の理事会認定上申の件 (CC研究部会執筆論文)
 - 2014年10月05日～2014年10月10日 個人会員入会承認の件
 - 2014年10月06日～2014年10月10日 法人会員退会承認の件
 - 2014年10月18日～2014年10月24日 動画配信移行の件 (UstreamからYou Tubeへ)
 - 2014年10月28日～2014年11月04日 個人会員、学会会員承認の件
 - 2014年11月16日～2014年11月21日 デブサミ2015参加の件
 - 2014年11月27日～2014年12月11日 (予算申請)オープンラボ講師への謝金(交通費)支払いの件
 - 2015年02月19日～2015年02月26日 (予算申請)デモ開発用機材購入の件
 - 2015年04月17日～2015年04月21日 (予算申請)デモ開発用機材購入の件

2015年04月27日～2015年05月01日 (予算申請)IT女子プログラム イメージシンボル作成の件
 2015年04月30日～2015年05月07日 (予算申請)デモ開発用機材購入の件
 2015年05月07日～2015年05月11日 法人会員入会承認の件
 2015年05月15日～2015年05月21日 (予算申請)デモ開発用機材 追加購入の件
 2015年06月08日～2015年06月11日 (予算申請)外部会議室借用申請の件
 2015年07月03日～2015年07月06日 (予算申請)IT女子プログラム講師への謝金(交通費)支払いの件
 2015年07月16日～2015年07月21日 法人会員入会承認の件
 2015年07月17日～2015年07月21日 個人会員入会承認の件
 2015年07月22日～2015年07月24日 個人会員入会承認の件
 2015年07月29日～2015年08月03日 法人会員入会承認の件
 2015年08月06日～2015年08月10日 法人会員&個人会員入会承認の件
 2015年08月24日～2015年08月27日 個人会員入会承認の件
 2015年08月31日～2015年09月03日 (予算申請)成果発表会講師への謝金(交通費)支払いの件
 2015年08月31日～2015年09月03日 個人会員入会承認の件

4) 活動対象分野と体制

- ① クラウド・テクノロジー : 勉強会活動を経て、2011年5月に部会化
- ② コンテキスト・コンピューティング : 2010年10月より部会活動開始
- ③ AR : ビジネスARをテーマに2011年7月より部会活動開始
- ④ ユーザーエクスペリエンス技術 : 2011年12月より部会活動開始
(注:第3期までネットデバイスアプリケーション部会と連携)
- ⑤ ナチュラルユーザーインターフェース:2013年10月よりUX技術と連携し活動開始
(注1:ソーシャル・コミュニケーション分野に関しては、SNS等を設立時よりAITC全体で活用)
(注2:今期、IoT、IoTxAI、IoTxDL Deep Learningについては、クラウド・テクノロジー研究部会とAITCオープンラボを中心に活動)

5) 主催・共催イベント(総会、成果発表会) 計6回、 総参加者数: 215名 (会員: 182名、非会員: 33名)

2014/09/13(土) AITC × 九州 IT&ITS 利活用推進協議会(QPITS)共同開催

「防災サバイバル IT.hack ～最先端 IT を活用した集中豪雨対策シミュレーション&アイデアソン～」

2014/09/25(木) 活動成果発表会: ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

2014/09/27(土) 活動成果発表会: クラウド・テクノロジー活用部会

2014/09/29(月) 活動成果発表会: ビジネス AR 研究部会

2014/10/03(金) 活動成果発表会: コンテキスト・コンピューティング研究部会

2014/10/17(金) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第五回総会

記念講演「デザイン思考活用による経営変革とIT活用～経済産業省委託事業による調査・事例報告と実践方法のご紹介～」

(株)野村総合研究所 公共経営コンサルティング(兼)未来創発センター2030年研究室

上級コンサルタント 坂口 剛様

コンサルタント 松見咲子様

GOB Incubation Partners(株)

代表取締役 山口高弘様

6) 部会および部会間連携活動

- ・部会開催(月次)+部会 SNS(随時)
- ・部会リーダー会(月次)
- ・協働プロジェクト(月次+随時)+SNS(随時)
- ・合同部会&忘年会(年次 2014/12/12)

①クラウド・テクノロジー活用部会(2011年5月発足～2013年10月部会名変更)

月例会部会: 計11回

2014/10/21(火)、11/17(月)、12/12(金)、2015/01/20(火)、02/24(火)、03/17(火)、04/15(水)、05/12(火)、
 06/23(火)、07/22(水)、08/24(月)

参加者: 延べ110人

活動実績: 部会開催: 11回

・主な活動内容

気象庁 XML 用 API の維持・管理

クラウド関連の情報交換、イベント参加報告: 随時

クラウド関連の最新技術を使っている企業を訪問: 2回

部会内勉強会の開催: 5回(内1回は外部講師)

部会内ハンズオンの開催: 3回

AITC オープンラボとの連動: 2回

②コンテキスト・コンピューティング研究部会(2010年10月発足)

月例会部会: 計11回

2014/09/07(月)、11/21(金)、12/12(金)、2015/01/16(金)、02/26(木)、03/20(金)、04/17(金)、05/15(金)、06/19(金)、07/22(水)、08/28(金)

参加者: 延べ95人

活動実績:理論:・書籍「情報推薦システム入門」の輪読→ Wikiにまとめを掲載
・書籍「集合知とは何か」の輪読→ Wikiにまとめを作成中
・関連研究の紹介(もくもくリアクター、など)

実践:・Web関連技術の最新動向→ <http://www.slideshare.net/dsuket/web-42026827>
・リアルタイムWebとリアクティブプログラミング/FRPの組み合わせ

・Web of Things

・Deep Learning

応用:・2020年の東京オリンピックに向け、外国人観光客が増えたら

・協働プロジェクト「空気を読む家」でのコンテキストコンピューティングの活用

③ ビジネス AR 研究部会(2011年7月発足)

月例会部会: 11回

2014/09/05(金)、11/18(火)、12/12(金)、2015/01/09(金)、02/13(金)、03/06(金)、04/03(金)、05/14(木)、06/18(木)、07/16(木)、08/07(金)

臨時部会: 1回

2015/08/27(木)

参加者: 延べ67人

活動実績:・空間 OS の開発

・情報収集「2013-2014ここ一年のAR関連アップデート」

・外部講演1回(神奈川情報サービス産業協会向け)

・記事掲載:朝日新聞(週末版(be)&デジタル)にインタビュー記事(部会定義のAR解説)

④ ユーザーエクスペリエンス技術部会(2011年12月発足)&ナチュラルユーザーインターフェース活用部会(2013年10月発足)

月例会部会: 12回

2014/9/09(火)、10/23(木)、11/27(木)、12/18(木)、2015/01/22(木)、02/26(木)、03/26(木)、04/28(火)、05/28(木)、06/25(木)、07/24(金)、8/20(木)

参加者: 延べ75人

活動実績:・マンガ駆動開発 プロセスの設計、実践

・券売機のUXデザイン

・券売機プロトタイプの開発

・協働プロジェクト テーマ検討、UXデザイン

・イベントの準備、参加

情報処理学会 ソフトウエアジャパン2015 ITフォーラムセッション: 日本発!マンガ駆動開発のすゝめ

Developers Summit 2015: マンガ駆動開発

21cafe AITCオープンラボ: マンガ駆動開発のすゝめ ~キャラづくり・シナリオづくり・モノづくり~

デジタルガジェット祭り

dots. AITCオープンラボ 第6回 IoT勉強会

AITC 協働プロジェクト「空気を読む家」

⑤ 協働プロジェクト<Project LA>(2011年7月 検討開始~2015年6月15日最終報告書の公開をもって終了)

活動実績:・実証実験 : 2014年9月13日北九州市における「防災サバイバルITハック」集中豪雨対策シミュレーション

・最終報告書の作成

⑥ 新しい協働プロジェクト<空気を読む家>(2014年12月 検討開始)

活動実績:・合同部会を開催し、テーマ内容の検討、各部会の役割等を検討

・各部会における検討(合同部会の討議に基づき、構想実現のための技術を検討)

2014年12月12日(金)

2015年02月26日(木)

2015年07月24日(金)

7)オープン活動

①AITC オープンラボ

開催回数: 11回(2014年11月~2015年8月)

参加者 : 延べ464名(会員194名、非会員270名)

活動実績: IoT勉強会シリーズの開催(勉強会、ハンズオン、セミナー、LT大会)

外部団体との連携、外部の申し込みサイトを活用した集客、非会員へのアプローチを実施

開催日&テーマ:

- ・2014/11/17 「第1回 IoT 勉強会～IoT とは何なのか 一緒に考えよう!～」
- ・2014/12/15 「第2回 IoT 勉強会 ～「ソリューション」と「デバイス」の両側から攻めてみる～」
- ・2015/01/24 「第3回 IoT 勉強会(ハンズオン) センサーデータをクラウドに蓄積してみよう!」
- ・2015/02/25 「マンガ駆動開発のすゝめ ～ キャラづくり・シナリオづくり・モノづくり～」
- ・2015/03/14 「電子署名(PKI)ハンズオン ～ 電子署名・タイムスタンプ超入門!～」
- ・2015/04/21 「第4回 IoT 勉強会 Pepper x IoT x Web」
- ・2015/05/21 「(再演)第4回 IoT 勉強会 Pepper x IoT x Web」
- ・2015/05/28 「第二回 デジタルガジェット祭り!」
- ・2015/06/18 「第5回 IoT 勉強会 ～ 人工知能 x IoT～」
- ・2015/07/25 「Deep Learning ハンズオン勉強会 ～ Caffe で画像分類を試してみようの会～」
- ・2015/08/25 「第6回 IoT 勉強会 IoTx 総まとめ ～ IoT! 夏のデバイスだらけの LT 大会!」

②シニア技術者プログラム

開催回数: 6回 (2015年3月～2015年8月)

参加者 : 延べ95名(会員56名、非会員39名)

活動実績: IoT 勉強会シリーズの開催(勉強会、ハンズオン)、交流会

開催日&テーマ:

- ・2015/03/28 「シニア技術者プログラム キックオフ&交流会」
- ・2015/04/27 「第1回 IoT 勉強会&交流会～IoT とは何なのか～」
- ・2015/05/23 「第2回 IoT 勉強会&交流会～デバイスを知り、IoT アイディアを考える～」
- ・2015/06/18 AITC オープンラボと合同開催「IoT 勉強会 ～人工知能 x IoT～」
- ・2015/07/04 「第3回 IoT 勉強会(ハンズオン)&交流会～Arduino でセンサーに触れてみよう～」
- ・2015/08/01 「第4回 IoT 勉強会(ハンズオン)&交流会～Arduino を使って、もうちょっとやってみる?!～」

③IT 女子プログラム

開催回数: 4回 (2015年5月～2015年8月)

参加者 : 延べ85名(会員40名、非会員45名)

活動実績: 最新技術の勉強会シリーズ開催(勉強会、アイデアソン)、交流会

開催日&テーマ:

- ・2015/05/18 「AITC IT 女子プログラム キックオフ&交流会」
- ・2015/06/20 活動推進グループ会議
- ・2015/07/18 「第1回勉強会 最新技術を学ぶ～Web 編～&交流会」
- ・2015/08/22 「第2回勉強会 最新技術を学ぶ～IoT 編～&交流会」

7) 活動成果物(理事会認定)

コンテキスト・コンピューティング研究部会:

- ・論文:「コンテキスト・コンピューティングの構想～情報の共有と個人化の方法論として～」2014年9月30日公開
KBSE 2014(知能ソフトウェア工学研究会)投稿&発表
- ・論文「コンテキスト・コンピューティングとその応用」2014年9月30日公開
DEIM2014(日本データベース学会 他)投稿&発表
- ・論文「コンテキスト・コンピューティングに基づく意思決定のための知識抽出手法」2014年9月30日公開
SoC2014(第5回ソーシャルコンピューティングシンポジウム)投稿&発表
- ・Project LA 最終報告書 2015年6月15日公開

8) 公開資料

【活動成果発表会】 <http://aitc.jp/events/>

2014/09/25(木) 第4期活動成果発表会: ユーザーエクスペリエンス技術部会 & ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

【資料】アジェンダ

NUI 活用部会成果発表 「NUI を活用した 交通切符販売機の改良」

The Eye Tribe Tracker

NUI としての LeapMotion の活用

NUI デバイス紹介 RAPIRO

UX 技術部会成果発表 交通切符販売機の改良への UX デザインプロセスの実践

2014/09/27(土) 第4期活動成果発表会: クラウド・テクノロジー活用部会

【資料】2013年9月～2014年8月 活動報告

気象庁 XML 用 API - REST -

SPARQL API のご紹介

気象庁 API 利活用のご紹介

2014/09/29(月) 第4期活動成果発表会: ビジネス AR 研究部会

【資料】AITC&ビジネス AR 研究部会のご紹介

2013-2014 ここ1年の AR 関連情報アップデート

空間 OS

2014/10/03(金) 第4期活動成果発表会: コンテキスト・コンピューティング研究部会

【資料】コンテキスト・コンピューティングとその応用 DEIM2014(2014/3/5)発表内容

コンテキストコンピューティングに基づく意思決定のための知識抽出手法
9/13 防災サバイバル IT.hack with QIPTS の様子
人と機械が協調する Social Intelligence の実現性 ソーシャルコンピューティングとその可能性
ソーシャルインテリジェンスによる社会の変容

【第五回総会】

2014/10/17(金) 先端 IT 活用推進コンソーシアム(AITC) 第五回総会

【資料】 第五回総会 議案書

AITC 2013 年度会員アンケート集計結果 (会員限定)

【AITC オープンラボ】

2014 年 11 月期 AITC オープンラボ「IoT とは何なのか 一緒に考えよう! IoT 勉強会」

IoT 概論: AITC オープンラボ IoT 勉強会

IoT を実現する技術(センサー、デバイス、ソフトウェア)

国内外の事例紹介

とりあえず IoT 的なものを作ってみた ~センサーデータの測定・収集・蓄積・分析・出力まで~

<http://www.slideshare.net/dsuket/iotvol1-iot>

<https://www.dropbox.com/s/385fw858ep3wh31/IoT%E3%82%92%E5%AE%9F%E7%8F%BE%E3%81%99%E3%82%8B%E6%8A%80%E8%A1%93.pdf>

<http://www.slideshare.net/yasuyukijinnouchi/aitc-open-labiot20141117>

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iot-41780126>

2014 年 12 月期 AITC オープンラボ「第 2 回 IoT 勉強会 ~「ソリューション」と「デバイス」の両側から攻めてみる ~」

IoT デバイス Intel Edison 編

littleBits と IFTTT で超お手軽 IoT クッキング

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iotiot-intel-edison>

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iot-42756830>

2015 年 1 月期 AITC オープンラボ「第 3 回 IoT 勉強会(ハンズオン) ~ センサーデータをクラウドに蓄積してみよう! ~」

センサーデータをクラウドに蓄積してみよう

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iot-43882458>

2015 年 2 月期 AITC オープンラボ「マンガ駆動開発のすゝめ ~ キャラづくり・シナリオづくり・モノづくり ~」

マンガ駆動開発 第 3 版

マンガ駆動開発のすゝめ (再演により、以前の資料を使用)

<http://www.slideshare.net/harakoji/ss-45119351>

<http://www.slideshare.net/kzokm/ss-44128602>

2015 年 3 月期 AITC オープンラボ「電子署名(PKI)ハンズオン ~ 電子署名・タイムスタンプ超入門! ~」

NSA ESig PKI Handson - 電子署名(PKI)ハンズオン -

<http://eswg.jnsa.org/sandbox/handson/>

2015 年 4 月期 AITC オープンラボ「第 4 回 IoT 勉強会 ~ Pepper x IoT x Web ~」

Pepper x IoT x Web

センサーデータの取得・送信編

<http://www.slideshare.net/dsuket/aitc-pepper-x-iot-x-web>

<http://www.slideshare.net/hirokazuegashira/aitc-pepper-47967341>

<http://www.slideshare.net/yasuyukijinnouchi/pepperx-iotxweb>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=9OSa0dMYzDo>

2015 年 5 月期 AITC オープンラボ「第二回 デジタルガジェット祭り!」

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20155-aitc

http://www.slideshare.net/aitc_jp/aitc-ol-dgc2jumpingthetafrog-48829890

http://www.slideshare.net/aitc_jp/gadaget-0528ritsfukushi

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=jcO7877Vo3w>

2015 年 6 月期 AITC オープンラボ「第 5 回 IoT 勉強会 ~ 人工知能 x IoT ~」

人工知能の未来 ~IoT 時代の AI にむけて~

http://aitc.jp/events/20150618-OpenLab/20150618_IoTv2.pdf

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150618-io-taramoto

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iot-deeplearning>

2015 年 7 月期 AITC オープンラボ「Deep Learning ハンズオン勉強会 ~ Caffe で画像分類を試してみようの会 ~」

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/deep-learningcaffe>

2015 年 8 月期 AITC オープンラボ「第 6 回 IoT 勉強会 ~ IoTx 総まとめ ?IoT! 夏のデバイスだらけの LT 大会!」

<http://www.slideshare.net/dsuket/aitc-iotx>

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/aitc-iotxiotxai>

<https://esa-pages.io/p/sharing/409/posts/380/141969fb0ba1a17db8a2-slides.html#/>

<http://www.slideshare.net/DaisukeKimura1/ss-52075127>

<http://www.slideshare.net/k2izumi/iot-52082059>

<https://drive.google.com/file/d/0ByzIHFEwpidNNUdrMlpteGR0RTg/view?usp=sharing>

動画: <https://www.youtube.com/channel/UC2kqwrnf-SLaDZJ9kFz5TBQ>

【シニア技術者プログラム】

シニア技術者プログラム キックオフ&交流会

シニア技術者プログラム第2弾「第一回 IoT 勉強会 & 交流会 - IoT とは何なのか」

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150427-iot

<http://www.slideshare.net/dsuket/iotvol1-iot>

<http://www.slideshare.net/yasuyukijinnouchi/aitc-open-labiot20141117>

<https://www.dropbox.com/s/385fw858ep3wh31/IoT%E3%82%92%E5%AE%9F%E7%8F%BE%E3%81%99%E3%82%8B%E6%8A%80%E8%A1%93.pdf>

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iot-41780126>

シニア技術者プログラム第3弾「第二回 IoT 勉強会 - デバイスを知り、IoT アイディアを考える」

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150523-it

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/iotiot-intel-edison>

<http://www.slideshare.net/dsuket/io-t-20150523>

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150523-3-iot-15001520-arduino

シニア技術者プログラム第4弾「第三回 IoT 勉強会(ハンズオン)&交流会 - Arduino でセンサーに触れてみよう」

https://dl.dropboxusercontent.com/u/8148946/AITC/OpenLab/IoT_HandsOn_Lite.pdf

シニア技術者プログラム第5弾「第四回 IoT 勉強会(ハンズオン)&交流会 ~ Arduino を使って、もうちょっとやってみる?! ~」

http://cloud.aitc.jp/20150801_Arduino/20150801_Arduino.pdf

【IT 女子プログラム(通称:AITC 女子会)】

AITC 女子会 第一回勉強会「最新技術を学ぶ~ Web 編 ~」&交流会

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20157aitcweb

<http://www.slideshare.net/natsumiirimura/aitc-web-html5>

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20157aitcd3jshighcharts

http://www.slideshare.net/kumeichi_slideshare/hello-css-animationpublic

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20157aitcajaxcometwebsocketmqtt-51374130

AITC 女子会 第二回勉強会「最新技術を学ぶ~ IoT 編 ~」&交流会

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150427-iot

<http://www.slideshare.net/yasuyukijinnouchi/20150822-iot>

http://www.slideshare.net/aitc_jp/20150618-io-taramoto

<http://www.slideshare.net/yasuyukisugai/io-t-deeplearning>

【情報処理学会 ソフトウェアジャパン 2015】

<http://www.slideshare.net/kzokm/ss-44128602>

動画: <https://www.youtube.com/watch?v=MVF0MBinK-k>

9) 外部組織・団体との協力関係(順不同)

・アライアンス・パートナー

九州 IT&ITS 利活用推進協議会(QPITS)

・部会活動、協働プロジェクトへの協力・支援

産業技術総合研究所

気象庁

消防庁 消防大学校 消防研究センター

防災科学技術研究所

慶應義塾大学大学院 稲見研究室

東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター

・BizAR 研究部会のアライアンス・パートナー

デジタルハリウッド大学大学院 三淵研究室

・AITC オープンラボ共催

JNSA(日本ネットワークセキュリティ協会) 電子署名ワーキンググループ

・マーケティング活動支援

情報処理学会

・メディア・パートナー

ITmedia エンタープライズ

10) 外部主催イベントに対する協賛、協力、出展: 2回

・2015/02/03(火) 情報処理学会「ソフトウェアジャパン 2015」協賛。主催:一般社団法人 情報処理学会

・2015/02/19(木) 「Developers Summit 2015」オフィシャルコミュニティ。主催:翔泳社

11) 学会、外部セミナー等での講演: 3回

・「ソフトウェアジャパン 2015」催: 情報処理学会、開催日:2014年2月3日、会場:タワーホール船堀

講演: 日本発! マンガ駆動開発のすゝめ

司会: 松山憲和(PFU ソフトウェア)

講師: 原孝治(ディーディーエス)、菅井康之(イーグル)、桶作篤司(PFU ソフトウェア)

神野昌和(富士通)、吉田光輝(日本ユニシス・エクセリュションズ)、岡村和英(テクリエ)

- ・「Developers Summit 2015」主催:翔泳社、開催日:2015年2月19日～20日、会場:目黒雅叙園
 オープンジャム:日本発!マンガ駆動開発
 講師:原孝治(ディーディーエス)
 - ・「第32回技術セミナー ビジネス AR とソフトウェアエンジニアの未来」
 主催:神奈川県情報サービス産業協会、開催日:2014年10月10日、会場:横浜情報文化センター 大ホール
 講師:大林勇人(NTT データ経営研究所)
- 12) プレスリリース: 1件
- ・2015/6/12 先端IT活用推進コンソーシアム ビッグデータが導く「知識を行動へ」実証プロジェクトを完了し実証レポートを公開
 ～災害時には一人ひとりに適した行動を先端IT で支援～
- 13) AITC ニュースレター: 4回
- ・2014/10/01 第3号「コンテキスト・コンピューティングをご存知ですか？」
 - ・2015/01/08 第4号「AITC のこの一年、これからの一年」
 - ・2015/04/01 第5号「世界よ、これが『マンガ駆動開発』だ」
 - ・2015/07/01 第6号「AITC meets IoT ～オープンラボ、さらにパワーアップして快走中!～」
- 14) 文書整備
- 会員規約の改訂作業(第五回総会にて承認分)
 - 実施細則の整備作業
- 15) アンケート実施、公開
- ・「第5期(2014年度)会員アンケート」
 - 実施期間:2015年08月06日～2015年09月07日
 - 公開日程:2015年10月23日(本会サイトに掲載、会員限定公開)
 - (注:第5期(2014年度)とは、2014年9月1日～2015年8月31日を指す)

第2号議案

第5期(2014年度)収支報告の件

先端IT活用推進コンソーシアム

第 5 期(2014 年度)収支計算書

2014 年 9 月 1 日 から 2015 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 5 期 予算	第 5 期 実績	差額	備考: 予算策定時 vs 実績
1. 収入の部				
前年度繰越	6,955,055	6,955,055	0	
年会費	3,523,000	3,486,000	37,000	法人&個人事業主 36 会員 x 10 万円 vs 33 会員 x 10 万円 1 会員 x 5 万円 個人会員 8 会員 x 1 万円 vs 9 会員 x 1 万円 3 会員 x 5 千円 学会会員 2 会員 x 3 千円 vs 2 会員 x 3 千円
セミナー等参加費	190,000	444,000	△254,000	非会員セミナー参加費: 10 名 x 3 千円 vs 有料開催なし 懇親会参加費: 80 名 x 2 千円会 Vs 総会懇親会 90,000 円 オープンラボ等懇親会 354,000 円
雑収入	1,400	1,406	△6	利息
収入の部合計	10,669,455	10,886,461	△217,006	
2. 支出の部				備考: 用途別費用
総会開催費	300,000	268,578	31,422	総会懇親会費用: 246,132 円(但し、補てん分は 156,132 円) 総会表彰賞状の作成費用、広告費: 22,446 円
AITC オープンラボ、 成果発表会等の開催費	1,000,000	278,730	721,270	懇親会費用: 194,406 円、講師交通費: 15,000 円 広告費: 63,568 円、備品運搬費等: 63,568 円 その他: 1,500 円
コンソーシアムサイト リニューアル費 レンタルサーバー運用管理費	200,000	165,086	34,914	サイトリニューアル費: 118,800 円 Web サイト レンタルサーバー費(1 年分): 46,286 円
活動支援金	2,200,000	430,138	1,769,862	実証 & デモ用機器購入費 & 搬送費: 230,302 円 貸し会議室費用: 81,545 円 部会(クラウド・CC 研)用レンタル・サーバー費: 79,991 円 講師懇親会参加費: 20,000 円、パンフレット更新費: 18,300 円
協働プロジェクト支援金	1,500,000	441,792	1,058,208	実証実験に伴う出張旅費: 333,886 円 合同部会貸し会議室費: 64,800 円 Baklog 年間使用料: 23,328 円 レンタルサーバー費: 19,778 円
特別支援金	300,000	337,594	△37,594	シニア勉強会 & 女子会 & 交流会開催費: 271,974 円 サイトカバ画像加工費: 29,160 円 貸し会議室費用: 26,460 円、講師交通費: 10,000 円
イベント参加費	300,000	54,000	246,000	ソフトウェアジャパン 2015 サポーター費
事務局経費	1,944,000	2,138,400	△194,400	情報配信 & サイト管理費: 1,101,600 円 その他の作業支援費: 1,036,800 円
通信費	10,000	2,152	7,848	パンフレット配送費: 2,030 円 郵送料: 122 円
事務消耗品費	5,000	442	4,558	領収証書、事務用品購入費
雑費	50,000	17,336	32,664	名刺作成費: 13,050 円 振り込み手数料: 4,286 円
予備費	2,860,455	0	2,860,455	
支出の部合計	10,669,455	4,134,248	6,535,207	
次期繰越収支差額		6,752,213		

収支報告にあたって:

- ・単年度収支としては 20 万円余の不足金が発生した。主な要因はシニア技術者プログラムと AITC 女子会の活発な展開とそれに伴う事務局作業(情報配信 & サイト管理)の増加によるものである。
- ・次年度繰越金 670 万円余については、部会をはじめとする各種の活動と次期に本格化する協働プロジェクト「空気を読む家」へ充たし、活動の発展を支援する。

貸借対照表

2015年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,885,213		
流動資産合計		6,885,213	
資産合計			6,885,213
【負債の部】			
前受金	133,000		
流動負債合計		133,000	
負債合計			133,000
【正味財産の部】			
正味財産			6,752,213
(うち当期正味財産増加額)			(-202,842)
負債及び正味財産合計			6,885,213

財産目録

2015年8月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
【資産の部】			
現金預金	6,885,213		
普通預金	6,885,213		
横浜銀行	6,885,213		
流動資産合計		6,885,213	
資産合計			6,885,213
【負債の部】			
流動負債			
前受金	133,000		
流動負債合計		133,000	
負債合計			133,000
正味財産			6,752,213

第5期(2014年度) 監査報告書

監査報告書

2015年9月29日

先端IT活用推進コンソーシアム
会長 鶴保 征城 殿

監事 水谷 学 

私 監事は、先端IT活用推進コンソーシアム会員規約第34条に基き、本会の会期と定めた2014年9月1日から2015年8月31日における会計および業務について監査を行い、次のように報告します。

記

1. 監査の方法と概要

- (1) 会計監査のため、帳簿ならびに関係書類の閲覧をし、貸借対照表、収支計算書、財産目録について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。
- (2) 業務監査のため関係書類の閲覧をし、業務執行について検討し、必要と思われる監査手続きを用いて調査した。

2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、収支計算書、財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法令および規約に従って、先端IT活用推進コンソーシアムの財産および収支を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容および業務執行に関して、不正行為または法令もしくは規約に違反する事実はないことを認める。

以上

第3号議案

会員規約改定の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

会員規約改定

対象条文：(会期) 第1条 本会の会期は 2010 年 9 月 8 日より 2016 年 8 月 31 日までとする。

改訂案：(会期) 第1条 本会の会期は 2010 年 9 月 8 日より 2021 年 8 月 31 日までとする。

改訂の事由：

本会の会期については、会員規約 ●会期規定 (会期) 第 1 条により、2010 年 9 月 8 日より 2016 年 8 月 31 日迄と規定されている。すなわち、今期(第 6 期、2015 年度)が最終年度となる。

活動終了を惜しむ声、継続を希望する声が聞こえる中、最終年度にあたる今期、会期終了への不安を感じず、落ち着いた活動に参加いただくには、現時点で、会と活動の今後について方針を明確にしておくのが最良と考える。

よって、下記の事由をもって会期の 5 年間延長(会期末:2021 年 8 月 31 日)ならびに会員規約の改訂を提案する。

会期延長の事由：

- ・本会の活動は、設立以来の 5 年間で、先端 IT の調査・研究・研鑽を主体とする段階から、検証・実証結果をもって活用を推進する段階へと進み、現在は、IoT や AI、Deep Learning など関心の高い旬の技術を集中的に取り上げたオープンラボの活動が特に注目され、会の有用度、知名度ともに増している。今後、この取り組みを更に進展させ、IoT や AI に続く旬の技術領域を発掘し、調査、研究することで、会と活動の価値向上を目指したい。
- ・昨今の技術動向を俯瞰するに、IT の動きは活発で、個々の技術の組み合わせで新しい技術領域や新しい利用が創出されている。加えて、「モバイル/IoT×クラウド」というインターネットを基盤とする技術領域が新たな社会基盤になってきており、生活やビジネスを変え始めている。これから 2020 年の東京オリンピックに向けて、ドラスティックに発展していくであろう技術に取り組み、社会とビジネスへより一層貢献していきたい。
- ・このような環境下、2016 年 9 月 1 日からの 5 年間、技術動向と活動目標を見定めながら活動を継続、発展させ、東京オリンピック終了後の 2021 年に設立から 11 年間の活動を総括し、次の世代への橋渡しを行うことで現 AITC の使命を全うしたい。

上記の通り、本会活動の意義と世の中の技術動向を踏まえた上で、会員規約(会期)第 2 条※に従い、2021 年 8 月 31 日までの 5 年間の会期延長ならびにこれに伴う会員規約(会期)第 1 条の改訂をここにご提案する。

※ 会員規約(会期)第2条 会期の延長は、総会の承認による。

会期の延長をご承認いただいた暁には、第 6 期(2015 年度)はこれまでの活動の集大成に励むとともに、2016 年 9 月 1 日からの 5 年間を見据えた新しい活動体制の準備を行い、会と活動の更なる発展に寄与することを目指す。

第 4 号議案

第 6 期(2015 年度)活動計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

1. 本会の活動・運営方針

1) 活動理念

- ・ 一社ではできない活動、競合関係を超えた活動
- ・ 特定企業や団体からの独立性・中立性
- ・ 外部組織・団体との協業
- ・ 人的ネットワークの構築
- ・ 知見の発信・活用推進による社会貢献

2) 活動の目的

昨今、ITの変化は急速に速まり、加えて、従来の発展の方向性とは大きく変わりつつある。

本会は、新しいIT(以下、先端ITという)の活用を推進し、もってIT業界およびITが支える産業界、ならびに社会の発展に貢献することを目指し、技術者の自律的な活動を支援し、個々の技術者が先端ITを身につけ、今後の企業活動および社会の発展に活かすための活動の「場」を提供することを目的とする。

- 先端ITに関する情報を、いち早く技術者に提供・試用してみる場
- 技術者が切磋琢磨しあって先端ITに関する情報と知見を習得し、共有する場
- 先端ITの可能性を検証し、活用を推進する場
- 得られた先端ITの知見を発信していく場
- 先端ITに関する企業間交流の場

3) 活動の成果物

部会やプロジェクトの活動の成果として、以下の成果物を想定する。

- ・ 試用・検討報告書、
- ・ 実証実験報告書
- ・ 事例集、ノウハウ集、活用提案あるいは提言書
- ・ プロトタイプシステムの設計書、ソースコード、環境構築手順書など

2. 第6期(2015年度)の活動計画

1) 第4期～第6期の活動構想

先端ITに何度でもトライ出来る「場」を提供し、先端ITに対するより深い知見の獲得・発信することをコンセプトとし、AITCの活動を発展・活性化する事を目指す。

・ 先端ITの研究から、活用推進へと発展

従来からの先端ITに対する研究を継続し、研究成果を踏まえて実社会での具体的な先端ITの活用方法の提案、および活用推進の活動を実施する。

・ 研究対象とした先端ITの中核を担うノウハウを社会に還元

先端ITを活用するための普遍的な知見(理論、技術)を整理し、社会へ発信し還元する。また企業が提供する固有のサービスのベースとしてAITCが発信するノウハウの活用を推進する。

・ 社会に認められる先端ITのプロフェッショナル集団へ

先端IT分野に対する研究成果を纏め、社会へ発信する。有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。

2) 第6期の重点施策

以下に示す重点施策の遂行により、AITCの活動をより一層活性化し、活動構想の実現を目指す。
また、下記以外にも有効な施策があれば、適宜実施するものとする。

① 2021年を見据えた、更なる5年間の準備

第4期～第6期活動の最後となるこの一年では、次の5年間を見据えた活動を行う。次の5年間では、2020年に向けてドラスティックに発展していくであろう技術に取り組むと共に、更にその先、東京オリンピックを終え、その振り返りを行い、次のステージを見据えた明るい2021年をゴールに掲げている。IoT/AIだけにとどまらず、これから2020年に向けて新しい技術が生まれ、実用化されるだろう。その中で何が使えるのか、何が残るのか、東京オリンピック後を見据えた新しい技術領域を検証する。第6期の一年間では、次の5年間で進化するであろう技術を見極めながら、次のステージへの活動の助走とする。

したがって、現在の部会が対象としている技術領域に限定せず、AITCでまだ取り組んでいない新しい技術領域にもチャレンジする。企画者と知見を持つ人の連携を密に行い、外部講師によるセミナーや勉強会の開催を推進する。協働プロジェクトに適用し、検証するなど、試験的な取り組みを行い、得られたスキルと知見を会員内外に発信する。

② 部会活動の連携を更に強化

AITCの活動の中核は部会活動である。それぞれの部会が連携し、技術と人材が交流することにより、ひとつの部会だけではできない、より大きな成果を発揮できる場を提供する。その結果として部会活動そのものの更なる活性化を目指す。

・協働プロジェクト「空気を読む家」

第5期に最終報告書を公開したProjectLAIに続く新しい協働プロジェクトである「空気を読む家」が発足した。各部会の技術領域を横断するこのプロジェクトをテーマとし、部会間で連携した活動を促進し、技術と人材の交流の機会とする。

・合同部会

協働プロジェクトをテーマとして、合同部会を定期的に開催する。部会メンバーが相互に交流できる場を提供し、部会連携の土台として活用する。

③ 先端IT人材の活性化・多様化とネットワークの強化

・AITCオープンラボを軸に、若手技術者の育成を行う

先端ITの活用推進を担う若手技術者に、AITCの持つ知見や人脈を活用できる場を提供する。AITCオープンラボへの参加を通じて、新しい技術に対する知見の獲得、技術者の保有するスキル・ノウハウの発表、意見交換等による研鑽の場の提供を行うことにより、若手技術者の成長に寄与することを目指す。

・シニアプログラムを軸に、シニア技術者と若手技術者が交流する場を提供

長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供し、AITCを通じてシニア世代の力が社会のために活用されることを目指す。また、AITCの活動に幅広い視点からの意見を得ること、若手技術者への知見の伝承を図る。この場を、シニア技術者と若手技術者の交流の場として活用する。シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承することを目的とする。

・IT女子プログラムを軸に、「人・技術・知見との出会い」でIT女子の活躍を支援する

より多くの女性にAITCの活動に参加してもらうことで、女性の持つ活力を生かし、活動の活性化を図る。また、女性参加者がAITC活動の企画、運営に深く関与することで、一層の広がりや多様な視点を得ることを目指す。オープンな場での活動を通じてAITCを知ってもらい、AITCの活動における女性の活躍と参加を促進する。

④ 情報公開、活動のオープン化の更なる強化

部会活動や協働プロジェクトなどで培った研究成果を纏め、発信・活用推進を目指す。広く世に公開することにより、先端ITの活用推進に寄与すると同時に、社会的認知度の向上を目指す。また有用な情報を発信していくことにより、先端ITに対する知見を有するメンバーが集まる場としての地位を確立する。

・「AITCオープンラボ」で活動成果を伝播

定期的に「AITCオープンラボ」を開催する。部会に蓄積されたスキル・ノウハウを発信することで講師のスキルアップ・AITCのプレゼンス向上・技術者のすそ野拡大を目指し、先端ITの活用推進の足掛かりとなる場として定着させる。

・情報公開、活動のオープン化

AITCが発信する情報のオープン化を踏まえ、セミナー等の資料を速やかに一般公開する。これにより鮮度良く、リアルタイム性の高い情報を外部に発信することで先端ITの活用推進に寄与する。資料の公開に、外部サービスを活用することで、より多くの利用者からフィードバックを受けられるようにする。

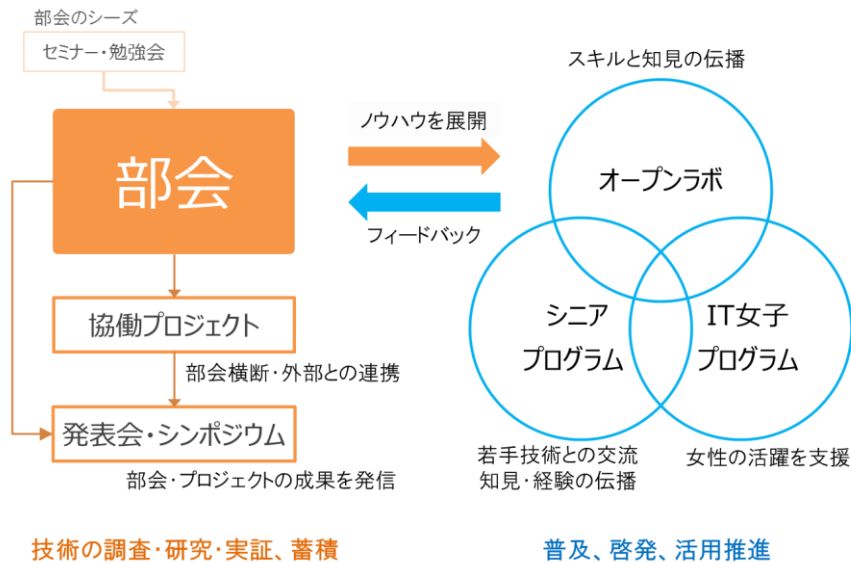
また、活動の告知にオープンな外部サービスを活用することにより、認知度の向上と参加者の増加を図る。

⑤ 活動メンバーの増強

新しい技術領域への取り組みで新規の会員を増やし、活動の一層の活性化のため、メンバーの増強を図る。

3) 活動の種類と関係性

AITC活動の種類と関係性を以下に示す。



- ① **セミナー・勉強会**
最新情報を入手する場
内外著名人による講演、交流の場
特定の先端 IT を学び、試しに試してみる場

- ・部会のシーズとなる先端 IT
- ・旬の話題、関心の高いトピック
- ・製品・サービスの紹介

セミナーでは、部会や勉強会のシーズとなる先端 IT を取り上げ、内外著名人による講演を通じて、最新情報を入手する場を提供する。
 また勉強会では、早いスピードで次から次へと新技術が誕生する分野であることを意識し、特定の先端 IT を短期集中(3ヶ月程度)で学習し、部会活動への準備を行う。先端 IT の動向を見ながら、そして会員の希望に副わせながら、旬のテーマを取り上げていく。

- ② **部会**
スキルを身につけ、ノウハウを共有する場

- ・特定の先端 IT を取り上げ調査し、試用に基づき評価し、可能性のアセスをし、知見の共有をし、報告書の作成を目指す。

部会では、特定の先端 IT を対象に、参加メンバーが活動期間と目標、そして具体的な活動内容や方法を定める。定期的な活動を通して、また、すでに知見を有するメンバーとの交流を通して、参加者は特定の先端 IT に関し知識とスキルを深め、ノウハウを共有することが可能となり、加えて、人的ネットワークを培うことができる。会員は希望する部会に、いつでも、いくつでも、参加することができる。

- ③ **協働プロジェクト**
部会間／外部団体との連携で研究を行う場

- ・先端 IT を使った実証実験、報告書/提言書の作成
- ・実証実験ではシナリオ作成、シナリオ設計、実装を行う

協働プロジェクトは、特定の目標(特定テーマによる実証実験、報告書/提言書等の作成)のために、一定期間、複数部会が合同で、あるいは、外部組織・団体と連携し活動する。
 実証実験の目的は、部会活動で得た仮説を検証することであり、外部との連携により、ユーザー視点での取り組み、データの提供、現場の助言等を受けられる利点がある。先端 IT の活用例を提示することで、活用推進の一翼を担い、成果物をもって協働プロジェクトで得た知見を社会に還元することを目指す。会員はプロジェクトに参加することができる。

- ④ **発表会・シンポジウム**
実活動に基づく情報と知見を共有する場

- ・部会の活動や成果、プロジェクトの成果を発表する

部会や協働プロジェクトでの活動内容、成果を基に、会員内や外部に対して発表を行う。
AITC 単独で開催する場合や、他の団体と共催する場合、または他の団体が主催する場合での発表を通して、知見を社会に還元し、先端 IT 活用推進の実現を目指す。

⑤ AITC オープンラボ

部会で得た知見を伝播する場・参加者の反応や要望を部会へフィードバックする場

- ・部会に参加出来ない会員への参加機会の提供
- ・広く AITC の活動を告知し、会員内外での認知度向上に寄与
- ・活用推進への足掛かりとして裾野を広げ、知見を社会に還元

AITC オープンラボでは、部会の活動内容・成果を基に、勉強会や他団体との交流イベントを開催する。部会に参加されていない会員も部会の活動内容を知ることができ、部会活動で培った知見、ノウハウを得ることが可能になる。部会側は参加者の反応や要望のフィードバックを受けることで、活動の進化・深化に役立てることができる。イベントは多様な形態を構想しており、「セミナー」「ハンズオン」「わいがや・オフライン」「会社見学」「他団体との交流」など、取り扱うテーマに合わせた形態でのイベント開催を目指す。

⑥ シニアプログラム

シニア技術者と若手技術者が交流する場

- ・長年の経験と技術を持つシニア世代の技術者に活躍の場を提供する
- ・シニア技術者の培ってきた知見・経験を若手の技術者に伝承する

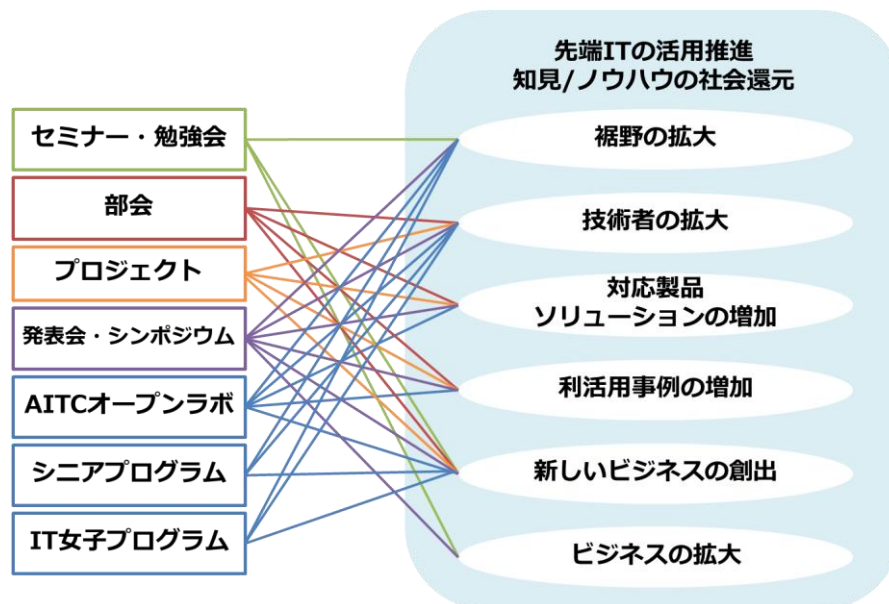
⑦ IT 女子プログラム

「人・技術・知見との出会い」で IT 女子の活躍を支援する場

- ・より多くの女性に AITC の活動に参加してもらうことで、女性の持つ活力を生かし、活動の活性化を図る
- ・オープンな場での活動を通じて AITC を知ってもらい、AITC の活動における女性の活躍と参加を促進する

4) 活動の期待効果

先端ITの活用推進、知見・ノウハウの社会還元を実現するための要素に対して、活動を通して下記のような直接的、間接的な効果があがると想定する。



5) 活動対象分野

本会では、これからのビジネスや社会基盤を支えるであろう先端 IT を取り上げ、新しい IT 活用を拓くことを目指し活動している。ユーザー・インターフェースからデータ/情報、アプリケーション、そしてシステム基盤関連まで幅広い分野における先端 IT をカバーしているからこそ、活動への関与の仕方次第で幅広いスキルやノウハウ、情報や知見を得る機会があり、多様な人との交流も可能になることが期待できる。

この視点に立ち、本年度は以下の対象分野別の活動を中核に据える。

【部会の取り組み対象】

- ① クラウド・テクノロジー
- ② コンテキスト・コンピューティング
- ③ ビジネスAR
- ④ ユーザーエクスペリエンス(UX)技術
- ⑤ ナチュラルユーザーインターフェース(NUI) <注: ネットデバイスアプリケーション(NDA)からの移行>

【部会横断の取り組み対象】

- ① IoT・M2M・CPS
- ② Deep Learning・人工知能
- ③ セキュリティ

分野別の活動計画詳細については、本議案書の付属資料に記載

【活動対象分野の位置付け】

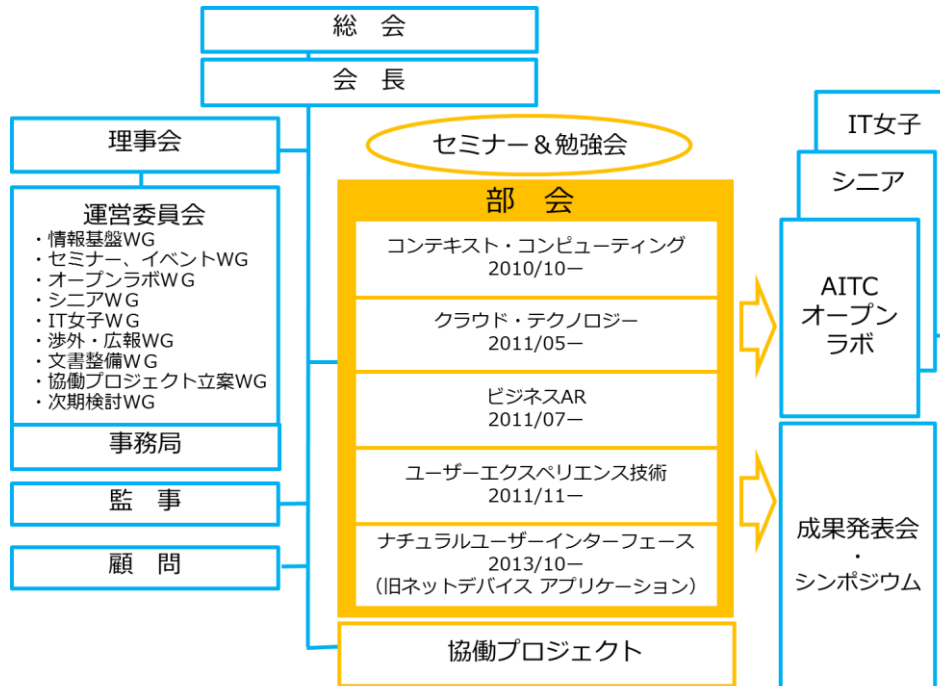


【新規分野への取り組みについて】

活動対象分野以外の先端ITに関しては、次の方法をもって会員からの要望を収集し、活動の立ち上げや旬の情報提供に努める。

- ① 本会会員なら誰でも、いつでも要望、意見等何でも書き込み可能な会員 SNS「わいがや会議室」を新しい活動テーマや旬の情報の発掘にも活用する。
- ② 運営委員会が、適宜、セミナーを企画、開催する。
- ③ 会員が提案し所定の手続きを経て活動を立ち上げる。
 会員規約第40条(勉強会)
 3 勉強会は、会員が提案し、理事会への報告をもって活動を開始する。
 会員規約 第41条(部会)
 3 部会は、会員が部会新設を提案し、理事会の議決を得て、設ける。

6) 体制図



7) 年間主要活動計画

(年次)	2015年10月23日 2016年10月(予定)	理事会、第六回総会、総会記念講演、懇親会 理事会、第七回総会、総会記念講演、懇親会
(月次)		運営委員会、部会リーダー会 協働プロジェクト立案・推進会議 部会(月例F2F会議) AITCオープンラボ シニア技術者プログラム IT女子プログラム
(随時)		合同部会 SNSコミュニティによる部会や協働プロジェクト活動 活動成果発表会 セミナー Webサイト更新作業 AITC内あるいは他団体との交流会、情報交換会 取材協力 外部主催の催事に対する出展、協賛等

第 5 号議案

第 6 期(2015 年度)予算計画承認の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第 6 期(2015 年度)予算計画

2015 年 9 月 1 日 から 2016 年 8 月 31 日 まで (単位:円)

	第 5 期 予算	第 5 期 実績	第 6 期 予算案	備考
1. 収入の部				
前年度繰越	6,955,055	6,955,055	6,752,213	
年会費	3,523,000	3,486,000	3,713,000	法人&個人事業主 35 会員×10 万円 個人会員 21 会員 × 1 万円 学会会員 1 会員 × 3 千円 注:総会開催時点の会員数で算出
セミナー等参加費	190,000	444,000	300,000	懇親会参加費 100 名 × 2 千円 100 名 × 1 千円
雑収入	1,400	1,406	1,500	受取利息等
収入の部合計	10,669,455	10,886,461	10,766,713	
2. 支出の部				備考:主用途
総会開催費	300,000	268,578	300,000	懇親会費、賞状作成費、備品運搬費等
部会活動支援費	2,200,000	430,138	1,100,000	成果発表会開催費、機器購入/レンタル費、 部会共用システム基盤費、 部会別レンタルサーバー費、 外部会議室費、書籍代、 外部講座参加費、学会等参加費 等
協働プロジェクト支援金	1,500,000	441,792	500,000	レンタルサーバー費、 実証実験費(交通費&宿泊費)、 合宿費(検討、開発&内部検証)
イベント参加費	300,000	54,000	100,000	外部イベントへの参加、出展費
オープンラボ開催費	1,000,000	278,730	300,000	外部会場費、講師交通費 等
シニア勉強会 & 女子会活動支援金	300,000	337,594	400,000	機器購入費、外部会議室費、講師交通費 等
事務局経費	1,944,000	2,138,400	2,592,000	事務局サポート要員費 (各種情報の配信&サイト掲載、会員管理&対応、 セミナー等申込受け付け&運営補助、 財務管理、経理業務、事務作業一般、対外対応等)
コンソーシアムサイト 運用管理費&リニューアル費	200,000	165,086	200,000	Web サイト レンタルサーバー費、 サイト・リニューアル費
通信費	10,000	2,152	5,000	郵送料、宅急便費
事務消耗品費	5,000	442	5,000	
雑費	50,000	17,336	30,000	振り込み手数料、名刺作成費
予備費	2,860,455	0	5,234,713	活動費(部会、協働プロジェクト、オープンラボ、シニア勉強会、女子会)に不足が生じた場合には、理事会の承認を得て活動費に回すことも可能とする。 残金は、会期延長に伴う活動継続を支えるため、次年度に繰り越す。
支出の部合計	10,669,455	4,134,248	10,766,713	

特記事項: 1. 年会費の収入は現会員数をベースに確実な収入額を計上

2. 支出の部の予算額は昨年実績をベースに計上。

但し、本会活動の中核たる部会の活動支援金については、活動の充実・発展を図るに必要な予算充当を考慮するとともに、各部会からの予算申請を確度と実効性の観点から精査し、結果、昨年実績の2.5倍を計上。

また、事務局経費について、第5期からの作業増加量に応分の1.2倍を計上。

第6号議案

第6期(2015年度)理事/監事選任の件

先端 IT 活用推進コンソーシアム

第6期(2015年度) 先端IT活用推進コンソーシアム役員構成

【理事候補】(敬称略、社名50音順)

(交代)

日本ユニシス株式会社 アドバンスド技術統括部 Web フロント技術部 部長 齋藤 重幸

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術部 部長	佐藤 一裕
イースト株式会社	代表取締役社長	下川 和男
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CPO	平野 洋一郎
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ センタ長	風間 博之
独立行政法人 情報処理推進機構	顧問	鶴保 征城
ドリーム IT21	代表	田原 春美
株式会社日立製作所	情報・通信システム社 IT プラットフォーム事業本部 プロダクト統括本部 開発基盤本部 主管技師長	吉野 松樹
富士ゼロックス株式会社	執行役員、ソリューション・サービス開発本部/本部長	永岡 大治
富士通株式会社	デジタルビジネスプラットフォーム事業本部 サービス企画室 室長	藤田 和彦
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター センター長代理	松山 憲和
ピースミール・テクノロジー株式会社	代表取締役社長 CEO	林 浩一
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 STC エグゼクティブスペシャリスト	飯沢 篤志

【監事候補】

(留任)ピー・シー・エー株式会社 代表取締役社長 水谷 学

参考: 顧問 & 部会顧問(敬称略、組織名50音順)

【AITC 顧問】

(留任) 慶應義塾大学 環境情報学部 教授	萩野 達也
慶應義塾大学 大学院 メディアデザイン研究科 教授	稲見 昌彦
(独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門 上級主任研究員	和泉 憲明
東京大学 大学院情報理工学系研究科 ソーシャル ICT 研究センター 教授	橋田 浩一
名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授	山本 修一郎
早稲田大学 情報生産システム研究センター 招聘研究	丸山 不二夫

【ビジネス AR 研究部会顧問】

AR 三兄弟 長男	川田 十夢
デジタルハリウッド大学大学院 メディアサイエンス研究所 教授	三淵 啓自

【運営委員候補】(敬称略、社名50音順)

(新任)

日本ユニシス株式会社	アドバンスド技術統括部 Web フロント技術部 開発一室 室長	高島 亮祐
------------	------------------------------------	-------

(留任)

アドソル日進株式会社	先端 IT 技術部	荒本 道隆
株式会社イーグル	開発部	菅井 康之
彩葉ソリューションズ	代表	澤崎 章二
インフォテリア株式会社	代表取締役社長/CEO/CPO	平野 洋一郎
株式会社 NTT データ	技術開発本部 サービスイノベーションセンタ 課長	高木 徹
株式会社NTTデータ経営研究所	公共行政サービスコンサルティングユニット マネージャー	大林 勇人
住友セメントシステム開発株式会社	技術統括部 研究開発チーム	陣内 康行
ドリーム IT21	代表	田原 春美
ドリーム IT21		原 孝治
日本ユニシス株式会社	ビジネスアグリゲーション部 事業クリエイション室 担当課長	牧野 友紀
ピースミール・テクノロジー株式会社	先端技術研究部	高岡 大介
富士通株式会社	SPF 開発企画戦略室 ソフト企画部 エキスパート	小森 斉
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第二開発部 マネージャー	道村 唯夫
富士ゼロックス株式会社	コントローラ開発本部 コントローラプラットフォーム第四開発部	門馬 隆
PFU テクノコンサル株式会社	技術センター センター長代理	松山 憲和
リコーIT ソリューションズ株式会社	経営企画本部 STC エグゼクティブスペシャリスト	飯沢 篤志

付属資料

第 6 期 (2015 年度) 活動のご紹介

～部会および協働プロジェクトの活動計画～

クラウド・テクノロジー活用部会

コンテキスト・コンピューティング研究部会

ビジネス AR 研究部会

ユーザーエクスペリエンス技術部会

ナチュラルユーザーインターフェース活用部会

協働プロジェクト「空気を読む家」

先端 IT 活用推進コンソーシアム

クラウド・テクノロジー活用部会

■背景/活動目的

5年目は、部会内勉強会からオープンラボでの外部向け勉強会の開催を継続しつつ、特に IoT を実現するための要素技術に注力した。

6年目も、引き続き部会内勉強会やハンズオンの開催を継続しつつ、IoT と機械学習を軸に、クラウドの各要素技術を活用する。

- ・測定(センシングなど): Arduino を使ったセンシング
- ・収集(ネットワーク) : 無線 LAN, Bluetooth, 電子署名, セキュリティ
- ・蓄積(KVS, クラウドサービスの利用): RDF, SPARQL, IaaS の利用
- ・分析(統計処理, オープンデータの利用, アルゴリズム): R, 遺伝的アルゴリズム, ディープラーニング
- ・出力(ビジュアライゼーション, プッシュ通知): R, D3.js

これら広範囲の各要素技術に対し、部会参加者が「知っている」ではなく「使ったことがある」「人に教えることができる」と言えるレベルを目指す。また、それらを使ったプロトシステムを開発し、運用を行う。

■活動計画

- ・クラウド関連の情報収集
- ・部会内勉強会&ハンズオンの開催(2ヶ月に1回ペース)
- ・プロトシステムの作成

■活動成果

- ・勉強会&ハンズオン資料
- ・オープンラボへの展開
- ・プロトシステムの AITC 内公開

■活動方法

- ・月例ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換

■体制(敬称略)

リーダー : 荒本 道隆(アドソル日進株式会社)

サブリーダー: 上村 準也(キヤノンソフトウェア株式会社)

菅井 康之(株式会社イーグル)

コンテキスト・コンピューティング(CC)研究部会

■背景

物事は、人の認知の仕方によって異なった価値や意味を持つ。

その価値や意味の違いは、対象とする物事と関連する物事の関係性の違い、つまり“コンテキスト”の違いに現れたりする。

IT を使って人がこのようなコンテキストを自由に扱えるようになったら、人々のコミュニケーションが深まったり、人々が協同し活動する成果がもっと豊かになったりするのではないか。そんな思いでコンテキストをコンピュータで研究を行う。

この研究活動において、コンテキスト・コンピューティングとは関係性をデータとして記録し、活用する情報活動であり、対象とする関係性は人と人、人と物事、人と環境である。

■活動目的

近未来の情報社会をビジョンとして描き、コンテキスト・コンピューティングにより個人と社会のインテリジェンス(Social Intelligence)が階層的に連動する情報基盤を提言する。

■活動内容

- ・コンテキスト・コンピューティングにより実現するビジョン「人と機械(コンピュータ)の協働による“情報の個人化” “社会知の形成”」の検討
- ・2020年のITシステムにおける Social Intelligence の姿と実現方法の構想
- ・コンテキスト・コンピューティングを実現するための基盤となるプラットフォームの作成
- ・コンテキスト・コンピューティングの社会・ビジネスにおける応用例の提案
- ・コンテキスト・コンピューティング先行研究・関連研究の調査、計算アルゴリズムの検証
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素の調査・試用(モバイル・ウェブアプリ等)

■活動計画

これまでの研究活動で構想したビジョン「人と機械の協働による社会知形成」に向けて、研究成果と課題を整理し、新たな中期の研究テーマを策定する。

コンテキスト・コンピューティング実現のための技術要素の試用・紹介と、関連研究・アルゴリズムの調査を行い、これらの検証を通じてコンセプト・応用先・実現方法を検討する。

「空気を読む家」におけるコンテキスト・コンピューティングの応用事例を検討する。

■活動成果

- ・人と機械の協働による社会知形成実現に向けたコンテキスト・コンピューティング研究状況(成果と課題の整理)報告書
- ・コンテキスト・コンピューティングの応用に関する報告書
- ・コンテキスト・コンピューティング関連研究に関する調査資料
- ・コンテキスト・コンピューティングの具体化のための技術要素に関する調査資料

■活動方法

- ・月次ミーティングでのディスカッション
- ・SNSを使ったオンラインでのディスカッション

■体制

(敬称略)

リーダー：道村 唯夫(富士ゼロックス株式会社)
補佐：牧野 友紀(日本ユニシス株式会社)
サブリーダー：小林 茂(個人会員)、
高岡 大介(ピースミール・テクノロジー株式会社)、
陣内 康行(住友セメントシステム開発株式会社)
顧問：和泉 憲明(産業技術総合研究所)

ビジネス AR(BizAR)研究部会

■背景

この数年来、スマートデバイスの一層の普及、ウェアラブル端末やセンサーネットワーク、生活支援ロボットへの期待の高まりが生じている。このような潮流をテクノロジーの観点で俯瞰すると、人間の感覚(視覚だけでなく聴覚や触覚など)の拡張やITと人間が一体となった(総連携)技術(=我々が考えるAR)の萌芽とみなすことができる。

他方、社会やビジネスの観点では、経済のグローバル化のさらなる進展と同時に、それとは異なる圏域(ローカル経済圏、脱貨幣、プロボノ等)が勃興しつつあり、世の中に広く影響を与える汎用テクノロジー(GPT)の開発や活用のあり方も新しい局面を迎えようとしている。

■活動目的

最先端のAR技術の把握と習得、及び今後の社会やビジネスの変化を踏まえたARの活用(ビジネスAR)について研究することを活動目的とする。さらに活動成果を発信していく。

■活動内容

前述の活動目的を達成するため、下記の活動を行う。

- 1)ビジネスARを創出、普及・展開するための考察・議論・グループ活動
- 2)AR技術への理解を深めるためのプロトタイプ開発・試行実験
- 3)上記活動を成果物としてまとめ、外部発信の活性化

■活動計画

前述の活動目的を達成し、かつ協働プロジェクト「空気を読む家」の実現に貢献するため、今までの部会活動を鑑みて2015年度は下記の活動を行う。

- 1)AR産業論に関する議論と取りまとめを継続
- 2)ロボティクスインターフェースによる聴覚ARを用いた遠隔会議の実施と検証
- 3)空間OS及び自宅でのトレーニングの拡張とそのための新技術の習得など
- 4)2015-2016 年 1 年のAR関連情報のアップデート
- 5)成果発表会、外部イベントにおける講演、パブリックコメントやコンテスト等への投稿など

■活動成果

- 1)(継続)新しいAR産業論
- 2)技術トライアル成果物の公開
- 3)講演等各種外部発信資料、月例会議事録及び参考資料

■活動方法

- 1)月例会の開催
- 2)SNS等を利用した意見交換や技術情報の交換、トライアル開発
- 3)顧問、外部団体・有識者との意見交換

■体制(敬称略)

リーダー：大林 勇人(株式会社NTTデータ経営研究所)
サブリーダー：中川 雅三(日本総合システム株式会社)
吉田 光輝(個人会員)

ユーザーエクスペリエンス(UX)技術部会

■背景

ITシステムが、その機能面での優劣を競うだけの時代から利用者にとって、どんな価値や経験を提供できるかが重要視される時代へと変わってきた。また、ユーザー体験(ユーザーエクスペリエンス、UX)を高めることは、コスト削減あるいは売上拡大というビジネス面からも重要性が増している。しかし、優れたUXを提供するITの実現には、先進的なUI技術やグラフィックデザインだけでなく、使い易さを追求するための人間工学や心理学、社会的あるいは文化的な状況への洞察など幅広い知識と経験が必要であり、一朝一夕に実現できるものではない。このような状況の中、UXデザインプロセスとして様々な手法やツールが提供され体系化が進められてきている。加えて製品単体のUXだけではなく、広い意味でのサービスを含めた、サービスデザインについても研究が進んでいる。

■活動目的

UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践を通して、利用者により良い体験を提供するITシステムとは何かを探究する。
UXデザイン/サービスデザインプロセスの実践・評価によって得られた知見を広く提供していくことで、ITのUX向上に貢献していく。

■活動内容

AITC 発のUXデザインプロセスである「マンガ駆動開発」の完成度を高め、文書として成果を公開する。

そのため、色々な UX デザイン/サービスデザインプロセスで活用できるツールや手法の研究と実践を行う。
また、UX に優れたアプリケーションや IT システムの事例研究、近未来 UX の検討を行う。

■活動計画

- ・2015年9月?2016年8月:
協働プロジェクト「空気を読む家」を対象にしたマンガ駆動開発の実践
サービスデザインの研究/実践
外部セミナーやワークショップの受講と部会での実践

■活動成果

- ・「マンガ駆動開発」
- ・協働プロジェクト「空気を読む家」の UX デザイン

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

リーダー：原 孝治(ドリーム IT21)
補佐：松山 憲和(PFU テクノコンサル株式会社)

ナチュラルユーザーインターフェース(NUI)活用部会

■背景/活動目的

前年度に引き続き、最新技術やデバイスの紹介などを行うとともに、前年度の成果を踏まえて、NUI の特性をより引き出しより身近に使えるものとなるようなプロトタイプ開発を目指し、調査・研究を行っていく。その活動を通じ、直感的で誰もが使いやすいインターフェースとは何かを探究し、ビジネスやサービスにおける様々なアプリケーションの利便性の向上に貢献していく。

■活動内容

協働プロジェクト「空気を読む家」のなかで、日常的な人間の振る舞いが自然なインターフェースとしてシステムと繋がるようなフレームワークを検討、開発する。

■活動計画

- ・NUI 技術及び事例の調査
- ・勉強会、ハンズオンの開催
- ・NUI フレームワークの開発
- ・デバイス、ガジェット紹介イベントの開催

■活動成果

- ・NUI 利用技術の習得
- ・NUI フレームワークの公開

■活動方法

- ・Face2Face ミーティングの開催
- ・SNS 上での情報交換
- ・セミナー/ハンズオン形式勉強会の開催

■体制（敬称略）

リーダー：岡村 和英(株式会社テクリエ)
サブリーダー：未定

協働プロジェクト「空気を読む家」

■目的

AITC では、各部会が技術的なテーマを持って活動を展開している。

協働プロジェクトは、以下を目的として活動を行っている。

- 1)一つのテーマのもと、本会が対象とする先端 IT 各分野の活動が集結、連携し、プロトタイプを構築することで、先端 IT の有用性を検証、評価する。
 - 2)会員に先端 IT に関するスキルやノウハウ習得の場を提供する。
 - 3)構築後のプロトタイプを一般公開し、試用してもらうことで、先端 IT の有用性を世に広く訴求し、利活用推進の一助とする。
- 2012年～2015年にかけて、ProjectLA を展開し、「知識から行動へ(Leads to Action)」をテーマに技術検討、システム開発、実証実験を経て、2015年6月に最終報告書を公開した。

■テーマ

社会課題解決へのチャレンジと各部会の活動成果の活用とをビジョンとして、『空気を読む家』を新しいテーマとして協働プロジェクトを開始。

・社会課題解決

超少子高齢化社会における安心・安全・快適な生活の実現

・各部会の活動成果

- ユーザーエクスペリエンス技術部会が提唱する「マンガ駆動開発」によるユーザー体験のデザイン
- ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み
- クラウド・テクノロジー活用部会が取り組んでいる、IoT や DeepLearning などの先端 IT をもっと身近に体感

- ビジネス AR 研究部会で検討を進めている「空間 OS」の取り込み
- ナチュラルユーザーインターフェース活用部会が研究している、真に自然なユーザーインターフェースの追求
- コンテキスト・コンピューティング研究部会で研究を進めている集合知、社会知の活用

■『空気を読む家』のコンセプト

全部会合同によるワークショップやミーティングを通して、『空気を読む家』の顧客価値の具体化とコンセプトを策定。

『空気を読む家』コンセプト

- ・『空気を読む家』は、「居心地の良さ」を考えて、実現する家です。
- ・『空気を読む家』は、「生活に必要なこと」を考えて、実現する家です。
- ・『空気を読む家』は、人々の行動を見て、世の中の知恵を取り入れ、成長します。

■活動内容

・2015 年度活動

『空気を読む家』1軒を部屋毎に建てていくイメージ(実際の「家」ではなくプロトタイプ)

- 家の各部屋(玄関、リビング、キッチン、寝室、浴室・・・)について、「マンガ駆動開発」により、課題抽出からユーザー体験をデザイン。

- ユーザー体験を実現する実証実験システムを、IoT、DeepLearning、自然なユーザーインターフェースを活用して構築
- 『空気を読む家』の大黒柱ともいえる「空間 OS」の拡充
- 活動成果発表会における発表

・2016 年度活動

- 複数の『空気を読む家』が「空間 OS」連携によって得られた集合知や社会知を活用
- 『空気を読む家』の内外評価
- 活動成果発表会における発表

■活動方法

以下の取り組みで活動を行う

- ・部会リーダー会を中心に意見交換、進捗把握、調整
- ・各部会における担当部分に関する調査、検討、実装の実行
- ・部会間の意見交換会
- ・発表
- ・構築後のプロトタイプ公開等
- ・プレスリリース

■活動成果

協働プロジェクトの実施によって見込まれる活動成果

- ・実証実験システム:システム、各種仕様書、ソースコード、モジュールなど
- ・活動報告書

■体制(敬称略)

リーダー : 松山 憲和(PFU テクノコンサル株式会社)

サブリーダー: 原 孝治(ドリーム IT21)

推進役 : 部会リーダー、サブリーダー、運営委員有志

メンバー : 会員有志 (状況に応じ、他団体との連携により非会員が参加)